

けいす (きんす)

鑿子

■ 出土地：円覚寺跡

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押し
の出土品を、月替わりでご紹介します。

今月は、円覚寺跡から出土した仏具「鑿子」
を紹介します。

この青銅製の鑿子は、ほぼ完形の状態で円覚寺跡から発掘
されました。鑿子とは、読経の際に棒(棗、桴)で叩いて鳴ら
す仏具の一種で、本来は鑿子台と呼ばれる台に座布団を敷き、
その上に据え置きます。

出土品は全体が青錆に覆われていますが、内面には「天界
寺」と陽刻されているのが見えます。

天界寺は、円覚寺、天王寺とともに三大寺と称され、尚泰
久王により1450～1456年の間に創建された、第一尚氏王
統(1406～1469年)の菩提寺でした。守礼門から玉陵の間
に位置し、跡地には首里杜館や
管理センターが建っています。

当資料は円覚寺跡から出土し
ていますが、当初は天界寺が所
蔵していたものと思われます。



鑿子の使用例 (大徳寺蔵)